

中部芸術文化記者クラブ、瀬戸市政記者クラブ同時

愛知県美術館
愛知県陶磁美術館
プレスリリース
12月2日

愛知県美術館 愛知県陶磁美術館 移動美術館
クロスボーダー：越境する美術

クロスボーダー 越境する 美術

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館は、より多くの県民の皆様に両館のコレクションをご覧いただくため、作品を県内各地に運んで展示する「移動美術館」を毎年開催しています。豊橋市で2回目の開催となる今回は、「クロスボーダー：越境する美術」をテーマに、アメデオ・モディリアーニや藤田嗣治、エミール・ガレなど、国内外の絵画や陶磁器を中心に約60点を展示します。

19世紀末からの鉄道や船の発達により、画家や陶芸家は国境を越えて盛んに移動するようになります。移動の理由は、技法や最新の美術動向を学ぶための留学、逆に技法を教えるための渡航、外貨を稼ぐための移住、戦争による亡命とさまざまです。また、欧米の好みを意識した日本の輸出用工芸が海を渡ったのもこの頃でした。他国に学び、他国の人々と交流した作家たちは、国内では得られなかった技術や経験をもとに作品を発展させていきます。本展では、人や物の「越境」に着目して、美術と工芸の歴史をたどります。

またあわせて、一般の方々向けの関連イベントや、学校団体向けの説明会を開催します。

会 期：2026年2月21日（土）～3月22日（日）

会 場：豊橋市美術博物館 展示室3・4

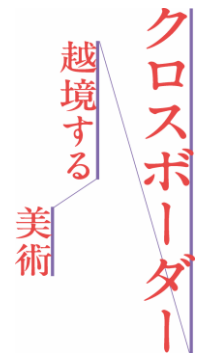
開館時間：9:00-17:00 ※初日は12:00から

休 館 日：毎週月曜日（ただし2月23日は開館）、2月24日（火）

主 催：愛知県美術館、愛知県陶磁美術館、豊橋市美術博物館

観覧無料

愛知県美術館
愛知県陶磁美術館
プレスリリース
12月2日



■関連イベント

◎ 記念講演会「移動から見える近代」

日時：2月21日(土) 14:00-15:30

場所：豊橋市美術館 講義室

講師：平瀬礼太（愛知県美術館館長）

佐藤一信（愛知県陶磁美術館館長）

司会：岡田亘世（豊橋市美術館館長）

定員：先着 80 名

※申込不要・聴講無料

◎ ギャラリートーク(学芸員による展示説明会)

日時：3月8日(日)、3月21日(土) 14:00-14:40

場所：豊橋市美術館 1階展示室

講師：愛知県美術館学芸員、愛知県陶磁美術館学芸員

※申込不要・聴講無料

◎ ワークショップ「ビンの中でクロスボーダー」

三河、尾張、遠州（湖西）の土に触れて、色や質感の異なる土をガラスのビンに詰めていきます。ビンの中でちょっとだけ越境（クロスボーダー）してみましょう。

日時：3月1日(日) 14:00-16:00

場所：豊橋市美術館 講義室

講師：愛知県陶磁美術館 陶芸指導員

定員・対象：15名・小学生以上(未就学児は大人の方の要付添)

申込方法：2月3日(火) 9:00より電話受付 [TEL：0532-51-2882]

※参加費無料

◎ ミュージアムコンサート

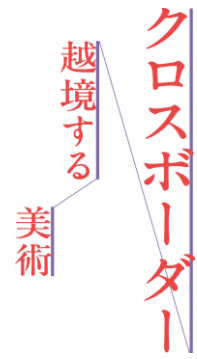
日時：3月20日(金・祝) 11:00-11:30

場所：豊橋市美術館 玄関ホール

出演：アンサンブル クレール(女声合唱)

※申込不要・観覧無料

愛知県美術館
愛知県陶磁美術館
プレスリリース
12月2日



■交通アクセス

公共交通機関 | JR・名鉄「豊橋」駅前より市電乗車 「豊橋公園前」下車 北へ約 250m
自動車 | 国道 1 号線「八町通三丁目」交差点を北へ
(駐車場 70 台・駐車券処理で 3 時間無料)

■問い合わせ

◎広報用画像について

会場・イベント・アクセスについて

豊橋市美術博物館

〒440-0801 愛知県豊橋市今橋町 3-1 (豊橋公園内)

Tel: 0532-51-2882 Fax: 0532-56-2123

E-mail : bijutsu@city.toyohashi.lg.jp

担当：田中

◎展示内容に関すること

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

Tel : 052-971-5511 Fax : 052-971-5604

E-mail : art11@aac.pref.aichi.jp

担当：鵜尾、白鞘

愛知県陶磁美術館

〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234

Tel : 0561-84-7474 Fax : 0561-84-4932

E-mail : touji@pref.aichi.lg.jp

担当：鮫島、大槻

愛知県美術館
愛知県陶磁美術館
プレスリリース
12月2日

クロスボーダー
越境する
美術

■主な出品作品／広報用画像



1 イタリアからパリへ 古代彫刻にも関心

アメデオ・モディリアーニ
《カリアティード》
1911-13年
愛知県美術館蔵



5 日本の美術に魅せられた フランス人

エミール・ガレ／ラオン＝レ
タップ製陶所
《ラスター彩荷葉文水注》
1877-84年頃
愛知県陶磁美術館蔵



2 あだ名は “日本かぶれのナビ”

ピエール・ボナール
《子供と猫》1906年頃
愛知県美術館蔵



6 バーナード・リーチと ともに“民藝”を広める

かわいかんじろう
河井寛次郎
《黄薬辰砂花扁壺》
1950年代
愛知県陶磁美術館蔵



3 単身渡米し現地で 評価を獲得

国吉康雄《帽子の女》
1920年
愛知県美術館蔵



7 横浜港で欧米人好みの 陶磁器を販売

ますきち
井村陶器店／川本桝吉（初代
または二代）
《色絵群鶴図花瓶》
明治時代（19世紀）
愛知県陶磁美術館蔵



4 ハンガリーからドイツへ 第二次世界大戦により アメリカに亡命

ラースロー・モホイ＝ナジ
《コンストラクション『ケストナー版画集6』より》
1922-23年
愛知県美術館蔵



8 海外の博覧会で評価

はんすけ
川本半助（六代）
《虎置物》
明治時代（19世紀前半）
愛知県陶磁美術館蔵